

意見書・決議の審議結果

※可決された意見書は、国等への関係機関に送付しました。原稿は提案議員が作成しております。

件名	要旨	○賛成 ×反対 △退席							議決結果	
		会派名(人数)		※議長は除く						
		みどり・市民(6)	日本共産党(4)	民主・社民(3)	公明党(4)	自民党小金井(2)	自由民主(2)	改革連合(1)	市民会議(1)	
小規模グループホームの防火体制強化を求める意見書	本年3月に発生した札幌市の認知症グループホームの火災は、入居者7名が亡くなる悲惨な結果となった。小規模施設の防火体制の強化を要望する。①275㎡以下の施設も含め、全てのグループホームにスプリンクラー設置の義務化と交付金等による国の支援の拡充。②小規模グループホームの人員配置の拡充、介護報酬の引上げ。	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
未就職新卒者の支援策実施を求める意見書	若者の厳しい雇用情勢に対応するため、未就職新卒者の支援策を早急に実施するよう強く要請する。①卒業後3年間は『新卒』扱いにするなど、企業、大学の間で新しいルールを策定すること。②学生と中小企業を結び付けるための情報提供を行う「政府版中小企業就活応援ナビ」の創設など、雇用のミスマッチを解消すること。	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
発達障がいや、その他文字を認識することに困難のある児童生徒のためのマルチメディア版教科書の普及促進を求める意見書	平成21年度にデジタル化対応したデジター教科書は、小中学生用教科書全体の約4分の1にとどまり必要とする児童生徒の希望に十分にこたえられない状況にある。必要とする児童生徒、担当教員等にデジター教科書を安定して配布・提供できるように、その普及促進のための体制の整備及び必要な予算措置を講ずることを要望する。	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
機能性低血糖症に係る国の取組を求める意見書	すい臓の機能失調等による血糖値の調節異常で発症する「機能性低血糖症」は医師ですらまだ認知度が低い病である。診断のための検査は、保険適用されていないため高額な自己負担が必要なほか、実施する医療機関も少ないのが問題。「機能性低血糖症」の調査研究、病名の認知や意識啓発、精密検査の保険適用等を要望する。	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
選択的夫婦別姓制度の導入に反対する意見書	選択的夫婦別姓制度の問題点は多い。子供の姓が一方の親とは別姓になり家族の一体感が喪失が懸念される。他人から見ても親子関係が分かりにくく、戸籍や住民票の記載も紛らわしい。姓で呼び合う文化・習慣が多い中、夫婦・親子が別姓になることは子供に与える影響が大だ。与党内でも意見統一がない制度導入に反対する。	×	×	×	×	○	○	○	×	否決
ばらまき政策を排し、財政の健全化を求める意見書	現政権の理念なきばらまき政策は国民の財政に対する不信任、将来に対する不安感を増幅している。歳出と歳入を一体的に改革し、財源の裏付けのある社会保障制度を確立することが急務であり財政を健全化するため、消費税を含む税制の抜本改革や徹底した行政改革、国家公務員人件費を2割削減することなどを強く求める。	×5 △1	×	×2 △1	△	○	○	○	×	否決
中小企業の抜本的な振興を求める意見書	中小企業、自営業者の支援策として、大企業と中小企業の公正な取引を保障するルールづくり、大型店舗・まちづくりアクセスの義務付けと地域商店を整備するルールづくり、加盟店と本部の公正な取引を保障するフランチャイズ適正化法の制定、生活密着型公共事業の推進、消費税の免税点の引上げなど支援策を講ずることを求める。	○	○	○	×	×	×	○	○	原案可決
国民健康保険加入者の負担軽減のために、国庫負担率の引上げを求める意見書	国民健康保険の国庫負担は1984年50%だったが、25%まで引き下げている。その結果、加入者の保険料負担が高くなり、保険料を払えない滞納世帯が増えている。政府与党は9千億円を投入し財政を立て直すと言っていたが、実際には40億円である。国庫負担の負担を軽減するため、国庫負担率を引き上げを求める。	○	○	○	○	×	×	○	○	原案可決
普天間基地問題の日米合意に基づく政府方針の決定に抗議し撤回を求める意見書	菅首相は、普天間基地問題は日米合意に基づき取り組むとしている。日米合意は、普天間基地の移設先を辺野古沖とし、訓練機能を全国に拡散、その移転先を徳之島と明記している。沖縄県、徳之島の住民は明確な反対の意志を示しており理解は得られない。無条件撤去こそ必要で、日米合意に基づく政府方針の撤回を求める。	○5 △1	○	○1 △2	×	×	×	×	△	原案可決

知ってみよう！行ってみよう！ 小金井市議会ガイドブック

市議会では、市民の皆様により市議会のしくみや議員の仕事、請願や陳情の出し方を知っていただく「小金井市議会ガイドブック」を作成しました。このガイドブックは、企画、レイアウト、文章など、議員自らの手で作成した手づくりの冊子です。ガイドブックは議会事務局（本庁舎4階）で無償配布しています。また、ホームページでご覧になり、ダウンロードすることもできます。是非ご活用ください！



反対討論 (要旨)
漢人明子(みどり・市民)
小金井市議会では過去2回、選択的夫婦別姓の早期実現を求める意見書を提出してきた。政府案は名字を同じにするか、それぞれの名字を維持するかを選べるとし、子の氏の変更も可能だ。内閣府世論調査では2001年以来賛成が反対を上回り、30代女性9割以上が法改正を望んでいる。国連女性差別撤廃委員会も政府に法改正を求めている。選択的夫婦別姓制度は多様で豊かな民主的な社会構築に貢献するものである。

賛成討論 (要旨)
中山克己(自由民主)
夫婦別姓論は個人主義に基づいており個人の自由と権利を守ることを何より優先させる。地域社会のつながりや家庭教育の重要性が叫ばれる今日では社会基盤となる家庭や家族の一体感の重要性を再認識し家族のきずなを強化する必要がある。制度の十分な国民的議論が尽くされておらず婚姻制度や家族の在り方に重大な影響を及ぼし社会的混乱を招くおそれのある本制度の拙速な民法改正に反対する考えから本意見書に賛成する。

反対討論 (要旨)
森戸洋子(日本共産党)
選択的夫婦別姓制度は女性の願いであり、国連の女性差別撤廃委員会からも再三再四改善を求められてきた。国会では日本共産党、民主党、社民党が12回にわたり法案を提出しているが、成立できない事態である。夫婦別姓により、家族の一体感が喪失するといっているが、現在の家族の崩壊が起きている要因は長時間労働など過度のストレスを受けているところにある。また、意見書の指摘には間違った認識がある。よって反対する。

選択的夫婦別姓制度の導入に反対する意見書

議会を傍聴しませんか

小金井市議会では、本会議だけでなく、委員会も公開しています。本会議は、市役所本庁舎4階の議場で、委員会も同3階の第一会議室で行われます。議会事務局で傍聴券の交付を受ければ、どなたでも傍聴することができます。

議会事務局(市役所本庁舎4階)
TEL(042)387-9947



簡単な手続で傍聴できます